

## 野菜栽培コースにおける研修の改善～海外と国内をつなぐ国際耕種の取組み<その4>

### 灌漑技術の普及/普及のためのデータ収集・活用法

前回の「作物生産と灌漑」に引き続いて「灌漑技術の普及」及び「技術普及のためのデータ収集・活用法」に関する研修を紹介する。

#### 「灌漑技術の普及」に関する研修

この研修では作物生産への灌漑の効果や、灌漑が誘引する問題点、節水の必要性の紹介に引き続いて、シリアにおける節水灌漑技プロの事例紹介及び効果的な普及活動の計画・実施方法の講義・実習を行った。

シリアの技プロでは、節水灌漑の普及のために普及員の研修と普及活動を組み合わせて行う「研修－普及連携システム」を構築し、研修で学んだことを実際の普及の場で活用できるような「実践の場」を普及員に与えた。普及活動実施に当たっては、準備の大切さを強調し、活動概要表や当日の時間割、普及活動で使用する資機材や普及教材の準備、参加する農民の評価のための質問票作成等の一連の作業の紹介及び演習を行った。

#### 「技術普及のためのデータ収集・活用法」に関する研修

一方、普及活動を効果的に実施するためには、対象とする地域の実態や現場農家の抱える問題点を明らかにすることが必要で、それには既存情報や収集データの整理・解析が有効な手法の一つである。この研修では、農業統計等の基本的情報や現場調査から得た各種データの活用法、及びデータ収集のための農家調査法、調査票の作成法等に関する講義・実習を行った。

#### 地域理解の手法として

データ解析に活用するデータのソースとしてはいろいろあるが、ここで目的とすることは既存データや収集データの解析から地域の特性を把握する、つまり地域理解のための一手法として行う。

この研修ではエクセルのグラフ機能を使って、降水量、作物生産、灌漑面積、生産コスト、農家の直面する課題等を可視化し、そこから何が読み取れるかという演習を行う。さらに、同じくエクセルのフィルター機能を使って、農業統計データから一定の条件を満たすデータを抽出して、それを表あるいはグラフ化して解析する、という演習も行う。

#### 農家調査とデータ収集

農業統計等の既存データを使うことに加えて、農家調査等によって収集した情報を活用する場合もある。農家調査の調査項目としては、広範囲にわたる網羅的な調査によってさまざまな情報を収集する場合や、ある程度調査項目を絞り込んでピンポイント的に実施する場合もある。

本研修では、後者のようにターゲットを絞って調査を実施し、対象農家の現状把握や課題発掘を行って、そのあとの普及活動につなげるようにしている。例えば、ジャガイモの病害の一つである「ソウカ病」対策を事例として、まず現状把握のためにはどんな調査が必要か、グループ討議によって調査項目出しや調査票作成を行う。その際、ソウカ病対策として推奨されているいくつかの対策（優良種イモの使用、輪作の導入、土壌pHの制御等）について、対象農家の知識や実施状況も調査項目に含める。

#### 農家調査結果と普及活動計画

上記のような農家調査に引き続いて、問題解決のためのアクションとして、普及活動実施を位置づけることができる。農家調査結果から、そうか病の被害状況や農家の対策状況の実態が明らかにされるので、それに従って普及目標（優良種イモ使用農家を○%増加させる、輪作導入面積を○ha 拡大する、ソウカ病被害率を○%まで低減する等）を設定する。

上記普及活動の実施後は農家調査を再度行い、活動の効果の判定や評価にもつなげる。このような、農家調査による現状把握→対策としての普及活動実施→普及活動の評価→さらなる活動の展開、という一連のサイクル実施によって、より効果的な普及活動の実施につなげることができる。



研修員による農家調査法に関する討議